

## 【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	与那原町の歴史
3	資料名	材木ストリート
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	与那原町、歴史、与那原港、山原船、材木、シチバ
6	説明	<p>江戸時代から木材の流通地として栄えていた与那原には与那原港があり、戦前・戦後と国頭（くにながみ；沖縄本島の北部）の山原（やんばる）から山原船で、沖縄本島東海岸のいくつかの港を経由して、材木や薪、炭などの生活必需品が運びこまれた。運び込まれた材木は、首里や各地域に運ばれるなど、町にはさまざまな物流や往来で活気があり、町の発展に大きな影響を与えていた。</p> <p>当時、与那原には「シチバ（敷場；材木等の荷物置き場とか、薪の荷揚げを行う場所のこと）」とよばれる材木屋が港周辺に立ち並び、材木ストリートとよばれるようになった。その後、港は埋め立てられ現在の東浜地区ができたが、以前の位置に数軒、営業を続けている材木屋がある。材木ストリートから与那原の歴史や住民の活気を感じ取ることができる。</p> <p>しかし、現地には「材木ストリート」の案内板等はなく、Google マップも表示されなかったため見つけづらかった。</p> <p>地域の歴史と文化を象徴する場所は、シティプライドとして町の伝統を誇りに思う源であり、シビックプライドとして地元住民が共に町を守る意識を高めることにつながる。材木ストリートは、与那原町のアイデンティティを形成してきた大切な場所で、現在も地域の絆を深める重要な役割を担っている。</p> <p>参考サイト            ・Yonabaru まちあるき MAP, <a href="https://yonabaru.okinawa/bgjxwmfq/wp-content/uploads/2016/12/konjyaku.pdf">https://yonabaru.okinawa/bgjxwmfq/wp-content/uploads/2016/12/konjyaku.pdf</a>, アクセス 2025/2/16.            ・ハイホーの沖縄散歩＝南部地区＝, 与那原の材木ストリート, <a href="https://sanpo.ifdef.jp/nanbu/zaimoku.html">https://sanpo.ifdef.jp/nanbu/zaimoku.html</a>, アクセス 2025/2/16.</p>
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	撮影者：上門礼奈
9	時代・年	撮影日：2025年2月16日
10	地域・場所	沖縄県島尻郡与那原町
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) で提供
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし

15	登録日	2025/2/15
16	登録者	上門礼奈
17	ファクトデータ	 <p data-bbox="842 853 1114 887">circd086 g -0001. jpg</p>
18	*特色	<p data-bbox="501 904 699 938">■与那原町とは</p> <p data-bbox="501 952 1460 1081">与那原町は沖縄本島の東海岸南部に位置し、北緯 26 度 11 分 58.5 秒、東経 127 度 45 分 17.5 秒にあつて県都那覇市から 9km の地点にあり、南東に南城市、西に南風原町、北に西原町と 3 市町村に隣接している町である。</p> <p data-bbox="501 1095 1460 1178">現在は、那覇市のベッドタウンとして知られ、子育て世代が多く住み、全国平均よりも人口千人当たりの出生率も高い。</p> <p data-bbox="501 1191 671 1225">■地名の由来</p> <p data-bbox="501 1238 1460 1368">与那原（よなばる）の「ヨナ（ユナ）」は沖縄の方言で砂・砂地（サンゴ礁）を表し、その名の付く場所の多くは海岸地である。与那原も先史時代は静かで白い砂浜が続く入り江だったと推測できる。</p> <p data-bbox="501 1382 1460 1512">*WEB サイト「沖縄の難しい地名と漢字」の 2013 年 11 月 14 日の記事「ヨナとつく地名」（<a href="http://yomi-difficult-okinawa.com/yona.html">http://yomi-difficult-okinawa.com/yona.html</a>）には以下のような記述もみられる。</p> <p data-bbox="555 1525 1460 1608">沖縄県立博物館の富島壮英氏の「ドゥナン（与那国）語源考」（1989 年）によると、琉球諸島の海岸のいたるところに自生する「ゆうな」と呼ばれる喬木（きょうぼく※背の高い木）を元にその名が付いたとしています。</p> <p data-bbox="555 1621 1460 1729">「琉球列島植物方言集（天野鉄夫著）」では海岸近くの沖積地は「ユナ」と呼ばれていて、そこに自生するオオハマボウを住民が「ゆうな」と呼ぶようになったことを記しています。つまり、砂地、そこに生える木、それらを「ユナ」と呼び、そこが「ユナ→ヨナ」と名づけられたという見解を示しています。（引用）</p> <p data-bbox="501 1742 727 1776">■与那原町の歴史</p> <p data-bbox="501 1789 1460 1957">古代の与那原人が最初に住み始めたのは上与那原（町南西部）といわれており、当時の上与那原は目の前に海が広がっていたことから漁に便利であり、加えて水も豊富だったため、自然に人が住み着き、集落ができたと考えられている。</p> <p data-bbox="501 1971 1460 2054">与那原の歴史は古く、沖縄最古の古謡集「おもろさうし」の中に「よなはる」や「よなはば（は）ま」（与那覇浜）、「あやご浜（与那原の浜辺の美称）」</p>

		<p>の名で登場しており、何首ものオモロが詠まれている。</p> <p><b>■与那原街道と馬車スンチャー、軽便鉄道</b></p> <p>与那原には、1885（明治18）年、首里 - 南風原 - 与那原を結ぶ与那原街道が改修され、与那原港に陸揚げされた地方の物産を首里（那覇）に運ぶ主要な道路として利用されていた。与那原に住む半数の人々は農業に従事していたが、その傍ら、副業として乗合馬車、荷馬車、人力車、荷車などを利用した馬車スンチャー（運送業）を担い、山原船で運ばれてきた物資は首里や那覇、南部各地へ運ばれた。</p> <p>その後、大正3年に開通した那覇～与那原間に沖縄で初めての軽便鉄道が開通し、交通の要衝や商業の街として栄えていた戦前の与那原は島尻郡東南部や中頭地方へ連結する産業経済の大動脈として栄えてきた。</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『沖縄大百科事典』、沖縄タイムス（1983）</li> <li>・『角川日本地名大辞典 47 沖縄』角川書店（1998）</li> <li>・与那原町、与那原町の紹介、<a href="https://www.town.yonabaru.okinawa.jp/soshiki/2/67.htm">https://www.town.yonabaru.okinawa.jp/soshiki/2/67.htm</a>、アクセス 2025/2/16.</li> <li>・与那原町観光ポータルサイト、与那原町の歴史、<a href="https://yonabaru.okinawa/about-yonabaru/history/">https://yonabaru.okinawa/about-yonabaru/history/</a>、アクセス 2025/2/16.</li> <li>・沖縄県、与那原町、<a href="https://www.pref.okinawa.jp/machizukuri/suido/1012453/1022435/1003450/1022437/1003468.html">https://www.pref.okinawa.jp/machizukuri/suido/1012453/1022435/1003450/1022437/1003468.html</a>、アクセス 2025/2/16.</li> </ul>
19	* 活用支援	
20	* 利用分野	生涯学習、地域学習、観光
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料 2	